

(昭和59年1月1日現在)  
 人口 21,672 (+50)  
 男 10,711 (+35)  
 女 10,961 (+15)  
 世帯数 6,482 (+17)  
 —人のうごき(12月中)—  
 転入 100人 転出 65人  
 出生 24人 死亡 9人



# まくべこ

||||||| 生きる喜びを創造するまち・幕別町 (新総合振興計画) |||||



## 篠原選手・サラエボ冬季五輪出場

サラエボ五輪スケート代表になった篠原雅人選手は、白人小から白人中(現札内中)を経て帯広白樺高校へ進み、王子製紙(苫小牧)へ入社しました。父親の博さん(千住・農業)は「ようやく夢がかないました」と、うれしさをかみしめていました。がんばれ雅人君!

(サラエボ冬季五輪は2月8日開幕です)



# 新しい時代を担う すばらしい顔



大人の仲間入りを祝う成人式が、1月15日に町民会館で開かれました。今回成人を迎えたのは、昭和38年4月2日から昭和39年4月1日の間に生まれた269人で、そのうち顔写真を掲載してあるかたが出席者です。





は

た

歳

ち

# すすむおとなを後を

## 壮年期からの健康づくり

老人保健法がスタートしてから一年が過ぎました。高齢化社会に備えて、お年寄りが健康で安心して暮らせるようにと、壮年期からの病気の予防、健康づくりの事業だけでなく、医療やリハビリテーション(機能回復訓練)にいたる一貫した保健サービスを行っていくことを目的としているのが「老人保健法」です。

### 健康を記録する 健康手帳

「健康手帳」には、次のような内容が盛り込まれています。

- ① 健康診査の記録
- ② 七十歳以上(六十五歳以上、七十歳未満で寝たきりの状態の人を含む)のお年寄りには「医療受給者証」および「医療の記録」
- ③ 健康教育、健康相談などの記



録

① 成人病の予防や健康な生活を送るための知識など  
このように健康手帳は、ご自身の健康と病気の状態を体系的にまとめて記録して、からだの状態がすぐ分かるようにするために交付されています。お医者さんにかかるときには、必ず持参されるようお願いいたします。  
健康手帳が交付される人は、次のようになっています。

### 健康手帳の 交付は……

- ① 七十歳以上の人
- ② 六十五歳以上、七十歳未満の人で寝たきりなどの状態の人
- ③ ①、②の要件の人を除いた四十歳以上の人で、健康診査、健康相談を受け、これらの事業を効果的に実施するために希望する人



七十歳を迎えた人は、生まれた月の翌月から(例えば二月二日生まれの方は三月一日から。ただし一日生まれの方はその月から)老人保健法の「老人医療費受給者」の

健康手帳を利用するお年寄り



資格を得ることになりますので、役場から通知がありましたら、町民課または札内支所窓口で手帳と医療費受給者証の交付を受けてください。

六十五歳以上、七十歳未満の人で、寝たきりの状態にある人は、あらかじめ申請をして、町長の認定が必要ですので、町民課へご相談ください。

また、四十歳以上の人も「健康手帳」のみの交付は受けられます。各種検診の記録ができますので、町が実施している各種検診の際にお申し出ください。

### お医者さんにかかるときは

お医者さんで受診するときに、病

院へ持つていくものは、次のものです。

- ① ご自身が加入している被健康保険者証
  - ② 健康手帳
  - ③ 老人医療受給者証
- 特に健康手帳には、各種検診を受けた結果が記録されていれば、診察のとき非常に役立ちますので、忘れないようにしましょう。
- 老人医療で診察を受けたときの一部負担金は、外来の一カ月にっいては四百円です。



また、入院の場合は、二カ月間に限り、一日について三百円の一部負担金を、病院へ支払っていただくことになっています。この場合本町では、申請により、入院時の一部負担金は全額助成することになります。



# 強風の中358人が 熱戦を展開

## 全町スケート選手権大会

第十四回全町スケート選手権大会が、一月十六日に町営スケートリンクで行われました。成績は次のとおりです。(総合のみ掲載)

### ■男子

- ▼小一・①和田智旭(途別小)②妹尾浩和(札南小)③山下博勝(幕小)
- ▼小二・①扇弘樹(幕小)②馬淵樹哉(札南小)③菅野保光(札南小)
- ▼小三・①山保浩史(幕小)②酒井邦昭(明倫小)③佐藤勝義(白人小)
- ▼小四・①久保基治(札南小)②山下

- 貴廣(幕小)③齊藤吉弘(幕小)▼小五・①中山仁(幕小)②岡田惠輔(札南小)③鳥海正行(札南小)▼小六・①久保一幸(札南小)②早津徳人(幕小)③佐々木淳(幕小)▼中一・①長田浩治(駒中)②山田誠(駒中)③神馬強志(幕中)▼中二・①竹内満晴(幕中)②金岡秀徳(幕中)③若月啓良(幕中)▼中三・①佐藤徳之(駒中)②黒沼世季(糠中)③大橋修(糠中)

### ■女子

- ▼小一・①長崎江梨子(駒小)②西田さゆり(途別小)③清野こず恵(札南小)▼小二・①柴野真理(明倫小)②長田浩美(駒小)③杉山真由美(駒小)▼小三・①藤原郁子(札南

- 小)②柿崎由紀子(幕小)③額頼桃子(幕小)▼小四・①桜井昌美(途別小)②長田恵美(駒小)③松岡淑恵(糠小)▼小五・①稗田美香(明倫小)②平野真紀(明倫小)③大野弘美(途別小)▼小六・①堀口友美(幕小)②嶋田美紀(幕小)③宮島美幸(幕小)▼中一・①稗田紀恵(糠中)②小川さおり(札中)③齊藤明美(札中)▼中二・①牧田博恵(糠中)②岡田和裕子(糠中)③上田まゆみ(糠中)▼中三・①中村美智代(駒中)

### ■一般女子

- ①竹内洋子(新町)

### ■幼児の部

- ①三井さなえ(札内桂町)②林志帆子(錦町)③岩井恵子(中里)

### 夜間照明が つきました

#### 町営ホッケーリンク

運動公園内の町営アイスホッケーリンクに、夜間照明の設備がつき、夜間も練習できるようになりました。



夜間照明がついたホッケーリンク

### 亀井君(糠内中)五百で優勝

#### 全道中学スケート

第十四回全道中学校スケート競技大会が、一月十四・十五日、苫小牧ハイランドスポーツセンターで行われ、亀井誠志郎君(糠中)が五百計・42秒6で優勝、佐藤みゆきさんが五百計四位・千計六位、竹内満晴君(幕中)が三千計九位と入賞しました。

男子二千計リレーでは、糠内中が三位の成績を収めました。

# 健康相談

## 質問

六十七歳になる

夫が、昨春秋に転倒し、腰を打ってから床にしていることが多くなってきました。打ったところは、もう痛まないようで、用便もトイレまでゆっくり歩いて行きますが、最近めっきり体が弱くなってきたように思います。

このままでは、ほんとうに寝たきりになるのではないかと心配です。そうならないためには、どうしたらよいでしょうか。

## お答え

(緑町・主婦A子さん) 御主人が倒れて、さぞご心配のことと思います。

寝たきりになるきっかけは、一番多いのがやはり脳卒中です。その他は、リユーマチや骨折から、ちょっとした「カゼ」まで、あらゆる原因になります。ちよつとした病気から、寝たきりになるということは、大事を取り過ぎるからとも言えます。休息は確かに大切です。しか

し、それも過ぎると体力が落ち、骨折しやすくなったり、手足の曲げ伸ばしができなくなったりします。そうならないためには、まず一日のなかで、座っている時間を長くすることが、一番良いのです。

寝ていても、座っていても大した違いはないように考えられますが、座ると筋肉が働き、血液の循環が良くなり、座る効果は大きいのです。

御主人も、腰痛がひどかったり、他に高血圧やまひなどの症状があれば、背もたれのあるいすなどに座って、外を眺めたり、テレビを見たりして、できるだけ横にならないようにすることが、良いと思います。そして、洗面や食事、衣服の着脱などは、できる限り自分でやるようにしてください。

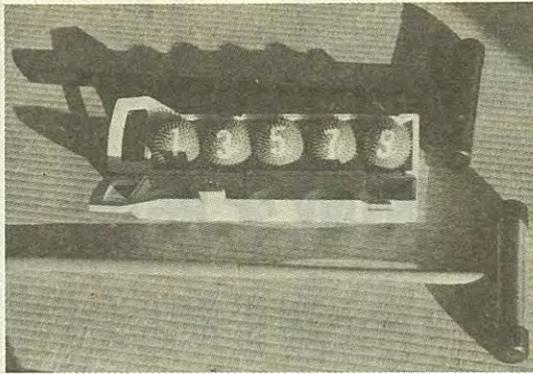
何でも手伝ってあげることが、思いやりと考えるかもしれません、それは返って本人の力の低下につながります。どうしても自分で、できない部分を手伝うようにしてください。自分ですると時間もかかり、ハラハラしますが、暖かく見守ってあげてください。

いったん、寝たきりになると、回復するには、長い時間がかかります。

寝たきりにならないように、防げるものは、防ぐように努力したいものです。ほかに、このような悩みをお持ちのかたは、保健婦まで御相談ください。



# まちの ニュース



### ▶全道初の冬季用ゲートボール購入

「冬でもゲートボールを楽しめます。」町では冬でも室内で競技ができる、ゴムのイボ付きボールなどの新製品を購入しましたが、一月十一日から、お年寄りたちが「トレセン」で使用開始しました。



### ▲「ふれあい広場・こまはた」オープン

駒島地区で若者たちが中心になり、農協の資材倉庫を改造して、多目的施設「ふれあい広場こまはた」をオープンさせました。資金は地域の人々や各方面から二百万円余りの寄付を募り、広さは七十平方メートルで、内部は会館部分とスナックに分かれています。スナックは畑に生える雑草の名を取って「ギシギシ」と命名されました。「雑草のようにしぶとく、たくましく地域づくりを進めたい」という願いが込められています。カウンターやカラオケセットもある本格的な設備を誇っています。

### ◀鉄製のゴミステーション設置

「自分たちの手できれいなまちづくりをしよう」。ゴミを犬などに散らかされるのに業を煮やした三好俊一さん(錦町)ら十二戸の住民が、鉄製のゴミステーションを設置しました。



### あなたの周りの ニュースを

このコーナーに地域や学校、個人のニュースを登場させてみませんか。取材にうかがいますので、役場の広報広聴係まで連絡ください。

### ▶温泉宿泊客へ「まくべつ焼」

しらかば大学では、学習の成果を郷土のために役立てようと、幕別温泉宿泊客へ「つまようじ入れ」などのプレゼントをしました。



## 幕別風土記 七

屋敷内に、四国の十勝八十八カ所の一カ所である七十四番を祭っておるんですよ。今も大ぜい人がお参りに来ますよ。



久保英太郎さん(89歳) 古舞565

町五反歩で、ようやく百円くらいの売り上げができましたわ。まあ、裸みたいなもんで来たから借金が多まり、冬は生薪を切って、帯広へ馬車で売りに行ったり、難儀しましたわ。

私は、香川県三豊郡柞田村(観音寺市)で明治二十七年十一月十四日に生まれました。私が十一歳の時に、父の妹が幸震村(帯広市愛国)の楠木辰造の妻で、その叔母さんが病弱だったため、ぜひ来てくれちゅうて、父が明治三十七年四月に来たんですわ。そして、その年の十一月二十七日に我々を北海道がいいから行こうちゅうて、父が迎えにきたんです。まあ、その当時は子供だから、北海道へ行ったら馬もおるぞとか、いいことばかり言うもんだから、北海道へ来たんですわ。入植した次の年(明治三十八年)に馬を三十三円五十銭で買ったが、その馬は足にけがをしていて耕やすのに使えないのにならぬ。仕方なく鍬で耕やして、楠木から借りた農地四

愛国から古舞へ移ったのは、明治四十五年二月三日で、今でもよく覚えています。愛国では一度引越しをしましたが七年間居ましたわ。そこは土地が悪くてね、それで古舞へ来たんです。その時私は十八歳ですわ。その当時は、イナキビに塩を振って食べたり麦を食べました。肉や魚は、昔はあまりなかったし、私は好きでないんだ。住宅は古舞へ来て三回建てました。現在住んでいる家だが、大正七年に五十三坪で四千七百円で建てましたわ。自転車は、大正五年の秋に兵隊でいた時、旭川でちよいちよい見ましたわ。父親がラージという舶来の自転車を四十二円で買ってくれました。

屋敷内に、四国の十勝八十八カ所の一カ所である七十四番を祭っておるんですよ。

# 町消防団出初め式

町消防団恒例の出初め式が、一月七日に第二分団(札内)、一月八日に第三分団(糠内)、一月九日に第一分団(幕別)が行われました。

この出初め式の席上、次のかたがたが表彰されました(敬称略)

■日本消防協会長・知事表彰  
▽精進章・三十年勤続||大久保正司(団長)

■知事表彰  
▽二十年勤続||額額太郎(第一分団部長) 上田栄一(同班長)

▽十年勤続||香田徹雄(第二分団班長) 中村栄光(第三分団員) 中村正昭(同) 森原久雄(同)

■道消防協会長・東十勝消防事務組合長表彰  
▽二十年勤続||田中和夫(第二分団員)

▽十年勤続||野村武志、長谷川洋州(第一分団員) 早苗誠治、山保直之、大野弘文(第二分団員) 渡辺

保嗣(第二分団員)

■道消防協会十勝地方支部長・東十勝消防事務組合長表彰  
▽十五年勤続||久保沼富一(第二分団員)

▽五年勤続||笹島信男、檜尾勝徳(第一分団員) 杉山雪男、西田重人(第二分団員)

■東十勝消防事務組合長表彰  
●精勤表彰(二百回)

早津邦男、東原均、吉田賢治(第一分団) 栗木幸夫、久保智、大野弘文(第二分団) 長崎幹夫、藤岡学、鎌田明(第三分団)

●精勤表彰(百五十回)  
林郁夫、小野馨(第一分団) 八卷省三、高橋秀樹(第二分団)

■町消防団長表彰(出勤率100%)  
佐々木正泰、長谷川洋州(第一分団) 大野多喜夫、大野潤二郎(第二分団) 藤平薫、永井晴男、久保沼富一、森原久雄(第三分団)

## 勲五等瑞宝章



故吉村康一さんに

昨年の十一月十二日に死去しました吉村康一さん(札内北町)の生前の功績に対し、勲五等瑞宝章が

贈られました。

吉村さんは、昭和三十四年四月に町議会議員に初当選以来、連続五期二十年の永きにわたり在職し、四十六年五月から五十年四月までの四年間町議会副議長として地方自治の育成発展に多大の貢献をされました。

また、昭和三十六年四月から五十二年三月までの十七年間、町社

## 救農土木事業終わる



事業箇所を視察する林町長

会教育委員として社会教育の振興と地域文化の推進に貢献され、特に成人教育の分野においては、市街地の婦人を対象とした婦人学級の開設、さらに高齢者を対象とした高齢者学級「しらかば大学」の開設に尽力し、みずから講師として、その豊富な識見と指導力を発揮された功績は偉大なものであります。このほか、町議会文教厚生常任委員長、町商工会理事、町森林組合常務理事、保護司などを歴任し、その功績は高く評価されています。

町では、冷害で大きな被害を受けた農家の経済状態の悪化を少しでも緩和するため、十二月二十二、二十六、二十七日の三日間救農土木事業を実施しました。

明野ヶ丘公園整備などに延べ五百五十一人の出役があり、支払われた賃金は約四百万円になりました。

林町長も全事業実施箇所を回り「ごろうさんです。がんばって下さい」と、言葉を掛けていました。

### 「寄付ありがっしょい」

町へ……  
▽吉村ミエさん(札内北町)から夫が生前お世話になりましたと二十万円、しらかば大学へ五万円

■町社会福祉協議会へ……

▽鈴木カネさん(札内中央町)から夫が生前お世話になりましたと三万円  
▽笹原岩夫さん(豊岡)から母が生前お世話になりましたと二万円  
▽マツダオート帯広支店から六万二千二十五円  
▽北川辰雄さん(千住)から父が生前お世話になりましたと三万円  
▽山根叔子さん(札内あかしや町)からタンポポサークル不用品交換会の益金の一部として五千元  
▽匿名のかたから千円

■老人クラブへ……  
▽藤原武雄さん(宝町)から一万円  
▽安彦由郎さん(日新)から二万円  
▽青木茂さん(札内新北町)から二万円  
▽北川辰雄さん(千住)から二万円  
▽上原美佐子さん(相川)から一万円  
▽西尾ナミ子さん(札内春日町)から三万円  
▽笹原岩夫さん(豊岡)から二万円

### 大石さん(前町長)より百万円

大石忠夫さん(緑町)から、図書購入に役立ててくださいと、町へ百万円の寄付がありました。

## 新町民登場

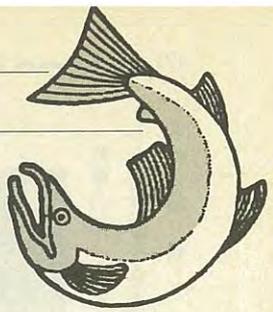


きのしたのりかつ 木下紀捷さん 緑町6

昨年十一月に、我が一族郎党を引き連れて、はるばる函館市から参りました。

銀行に勤めて以来、道内勤務は函館しか知らず、目下のところ、漁業から農業経済へ転身すべく勉強中であります。函館市は人口三十万といっても、歴史のある古い町だけに、雑然とした感じで、そこに住み慣れてきたせいか、当地に参りまして、まず第一に、この雄大な十勝平野と恵まれた自然環境、整備された道路、充実した教育、文化施設等にこの町の豊かさを感じさせられました。

穀倉地帯である幕別町で仕事のできることを喜びとし、地場産業発展のため、明るく活気ある町づくりのためにも、町民として、一銀行員として、こまやかなおつきあいを motto にして、がんばっていく所存であります。



# 栗毛の涙



「家で一番働きものの栗毛がい  
てな、春の開墾が始まろうとし  
てたころ、突然、馬小屋で栗毛が倒  
れたんだ、急いで獣医さんと呼ん  
で診てもらったんだが……。その  
晩だった、栗毛が家族を見上げて  
な、よく見ると目にいっぱい涙  
を浮べていたんだ。それを見たわ  
しも目頭が熱くなり、胸がしめつ  
けられる思いだった。そして家族  
全員で、栗毛の最期を見届けたん  
だ。」

その時のことを西村正治さんは、  
重苦しい口調で語ってくれました。  
昭和二十七年春のことであり  
る。家族同様にしていた栗毛が、突  
然発熱した。当時、一番恐れてい  
た伝貧にかかってしまい、親馬と  
当歳馬を残し、四頭たて続けに伝  
染し、やむを得ず死なせてしまっ  
たのである。

幕別 第46回  
ちかたり  
路傍の神  
開拓と信仰①  
五位の  
馬頭さん



その当時、農業を営む人たちに  
とって馬は、欠くことのできない  
動力であり、大人、子供を問わず、  
家族同様に大切に愛されていた。  
翌年正一さん（西村正治さんの  
父親）は、二度と恐ろしい伝貧病がは  
やらぬように、そして、家族同様に  
大事な馬を死なせることのないよ  
うにと願い、家族と「家で馬頭さん  
を祭ろう」という話をした。その  
話を聞いた、下五位の人たち（当  
時二十四戸ほどであった）は、そ  
の意見に賛同し「それならば、みん  
なで立派な馬頭さんを作ろう」と  
話がまとまり、同年四月十七日、現  
在の馬頭さんの向かい側に「五位  
の馬頭さん」を祭ったのである。  
その後、昭和三十八年ころから、  
三戸の農家が共同でトラクターを

導入するなど機械化が始まり、馬  
の活躍は徐々に少なくなつてゆく  
が、「五位の馬頭さん」を祭った  
時の五位の人たちを結んだ強いき  
ずなは、今も変わることなく、当時  
馬がどれほど農民の宝であったか  
を、語り継ぐかのように、毎年春  
と秋の二回僧侶を呼び供養するこ  
とも、家族総出で馬頭祭が盛大  
に行われるのである。

なお、道々幕別大樹線の道路改  
修工事が行われた時に、五位の関  
係者の手により、現在の場所に移  
された。

※栗毛＝馬の毛色、地肌が赤黒く、  
たてがみと尾が赤茶色を呈して  
いる馬。

※当歳馬＝その年に生まれた仔馬、  
「とねっこ」ともいう。

※伝貧病＝昆虫類の媒介によつて  
感染する。馬独特の疾患で、突然  
の発熱があり、確実な予防法も、  
治療法もなく当時、大変流行し  
ていた。

（取材・前川 澄枝）  
取材協力 西村 正治さん

## サーモン通信

36

昨年十月に、ジャンボ水槽に産  
み落とされたサケの卵は、ふるさと  
館のほか、幼稚園、愛育園を含  
めた十三カ所の学校と、本年度か  
ら始めたサーモンファミリー五戸  
の家庭で、続々と元気なサケの赤  
ちゃんが誕生し、小さなサケ博士  
に見守られながら、すくすくと育  
つていきます。さいのうは、小さく  
なりサケ科特有の斑点がはつきり

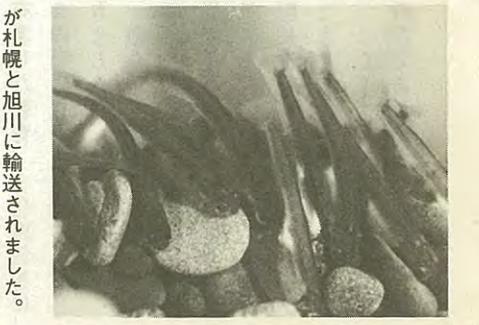


えすぎと、水の汚れに充分気をつ  
けることだそうです。  
ふるさと館で産まれた卵の一部

が札幌と旭川に輸送されました。  
札幌は、北海道放送が行っている  
サーモンスクール用で、サケが成  
長するようすをニュースロータリ  
ー（毎週月曜日から金曜日の午後  
六時五分から）で全道放送されて  
います。旭川は、青少年自然観察  
サークル「グリーンフォーラム旭  
川」に届けられました。旭川では、  
サークルの代表者により、四月に  
放流する条件付きで、小学校など  
九の団体と、三十三戸のサーモン  
ファミリーに配られたそうです。  
ふるさと館で産まれたサケたち  
は、幕別、札幌、旭川と違った土地  
で育ち、放流後どこかの海で、き  
つと再会することでしょう。

見えてきました。  
冬休みも終わり、久しぶりにサ  
ケを見る生徒たちは、成長の早さ、  
生命の不思議さに驚いています。  
飼育を担当している生徒は、冬  
休み中も毎日休むことなく、世話  
を行い、観察日記も細かく記録し  
ています。

餌づけも始まりましたが、本格  
的に泳ぎ出すまでには、もう少し  
日数がかかりそうです。早いもの  
は、「餌を良く食べ、水槽内をゆう  
ゆうと泳ぎまわっています。が強  
い、弱いがありません」とのこと  
です。今注意していることは、餌の与



前川 澄枝さん



中島 強さん